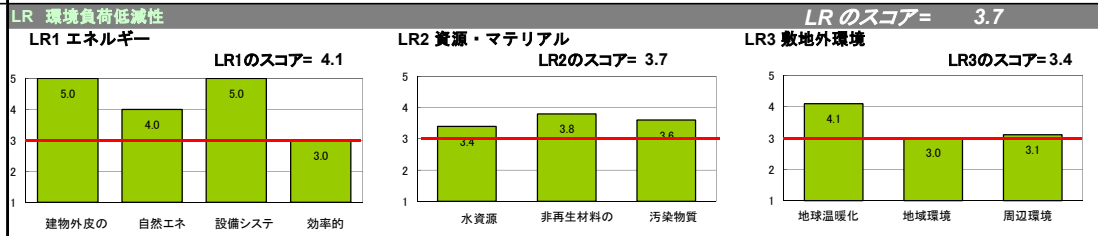
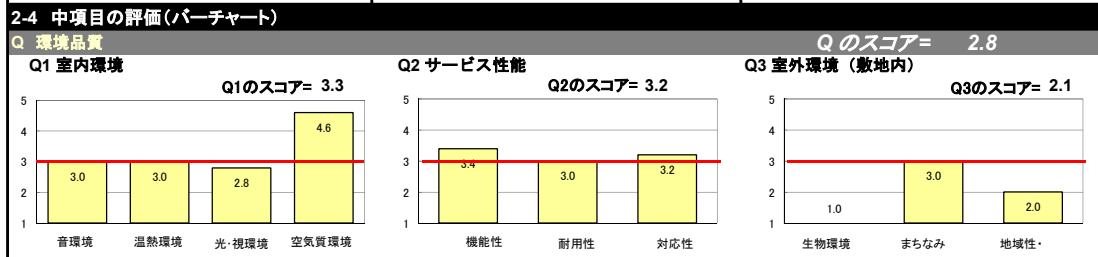
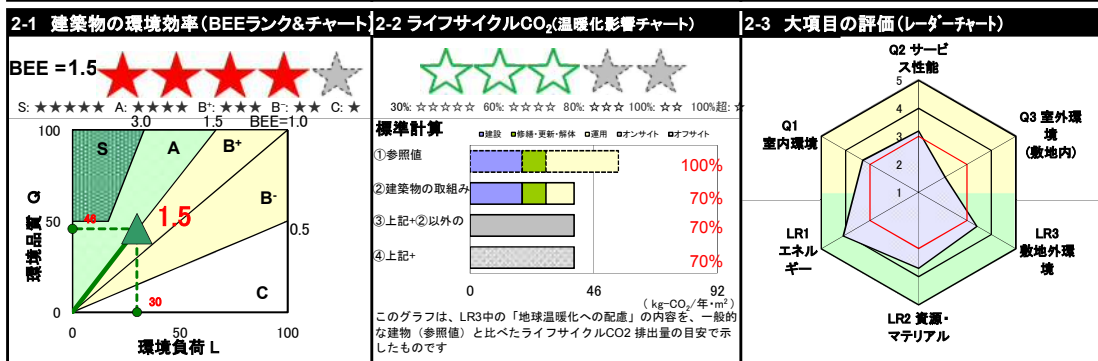


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社上組 飛鳥複合倉庫新築	階数	地上2F
建設地	愛知県海部郡飛鳥村東浜1-5-4	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	102 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2018年1月26日
敷地面積	39,629 m ²	作成者	有川
建築面積	20,027 m ²	確認日	2018年2月2日
延床面積	26,828 m ²	確認者	渡邊



3 重点項目	
<p>① 地球温暖化への配慮</p> <p>4.1</p>	<p>③ 敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>② 資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④ 地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
 LR-3.1 地球温暖化への配慮
 外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

② 資源の有効活用
 Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
 LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

③ 敷地内の緑化
 Q-3.1 生物環境の保全と創出

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち版手引		CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版	
評価シート		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部全体・共用部全体・住戸・住戸部分
記載項目	重要項目		全体
Q1 建築物の環境品質			2.8
Q1 室内環境			3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0
1.2 遮音			3.0
1 開口部遮音性能			3.0
2 外壁遮音性能			3.0
3 床遮音性能(軽量衝撃音)			3.0
4 床遮音性能(重量衝撃音)			3.0
1.3 吸音			3.0
2.1 室温制御			3.0
1 室温			3.0
2 外皮性能			3.0
3 フィン制御性能			3.0
2.2 湿度制御			3.0
2.3 空調方式			3.0
3 光・視環境			2.8
3.1 昼光利用			3.0
1 昼光率			3.0
2 方位別開口			3.0
3 昼光利用設備			3.0
3.2 フレア対策			3.0
1 昼光制御			3.0
3.3 照度			2.0
3.4 照明制御			3.0
4 空気質環境			4.6
4.1 発生源対策			5.0
1 化学汚染物質			5.0
4.2 換気			4.5
1 換気量			4.0
2 自然換気性能			-
3 取り入れ外気への配慮			5.0
4.3 運用管理			4.0
1 COの監視			3.0
2 喫煙の制御			5.0
Q2 サービス性能			3.2
1 機能性			3.4
1.1 機能性・使いやすさ			2.5
1 広さ・収納性			3.0
2 高級感・高品質感			3.0
3 ハリアフリー計画			-
1.2 心理性・快適性			4.0
1 広さ感・景観(天井高)			4.0
2 リフレッシュスペース			5.0
3 内装計画			3.0
1.3 維持管理			4.0
1 維持管理に配慮した設計			4.0
2 維持管理用機能の確保			4.0
2 耐用性・価値性			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0
2 免震・制震・制振性能			3.0
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3
1 躯体材料の耐用年数			3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0
4 空調機・換気機等の更新必要間隔			5.0
5 設備・器具等の更新必要間隔			3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0
2.4 信頼性			2.8
1 空調・換気設備			3.0
2 給排水・衛生設備			3.0
3 電気設備			3.0
4 機材・配管支持方法			3.0
5 通信・情報設備			2.0
3 対応性・更新性			3.2
3.1 空間のゆとり			3.8
1 階高のゆとり			3.0
2 空間の形状・自由さ			5.0
3.2 荷重のゆとり			3.0
3.3 設備の更新性			3.0
1 空調配管の更新性			3.0
2 給排水管の更新性			3.0
3 電気配線の更新性			3.0
4 通信配線の更新性			3.0
5 設備機器の更新性			3.0
6 バックアップスペースの確保			3.0
Q3 室外環境(敷地内)			4.0
1 生物環境の健全と創出			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0
3.1 地域性への配慮・快適性の向上			2.0
3.2 敷地内環境の向上			2.0
LR1 エネルギー			4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0
2 自然エネルギー利用			4.0
3 設備システムの高効率化			5.0
4 効率的運用			3.0
4.1 モニタリング			3.0
4.2 運用管理体制			3.0
LR2 資源・マテリアル			3.7
1 水資源確保			3.4
1.1 節水			4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0
1 雨水利用システム導入の有無			3.0
2 雑排水等処理システム導入の有無			3.0
2 非再生性資源の使用量削減			3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0
2.5 持続可能な森林から調達された木材			2.0
2.6 材の再利用可能性向上への取組み			5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0
1 消火剤			-
2 発泡剤(断熱材等)			3.0
3 冷媒			3.0
LR3 露地外環境			3.4
1 地球温暖化への配慮			4.1
2 地球環境への配慮			3.0
2.1 大気汚染防止			3.0
2.2 温熱環境変化の改善			3.0
2.3 地球温暖化への負荷抑制			3.0
1 雨水排水負荷低減			3.0
2 汚水処理負荷抑制			4.0
3 交通負荷抑制			4.0
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0
3 周辺環境への配慮			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0
1 騒音			3.0
2 振動			3.0
3 悪臭			3.0
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0
1 風害の抑制			3.0
2 砂塵の抑制			3.0
3 日照障害の抑制			3.0
3.3 光害の抑制			3.7
1 建物周辺及び周辺環境の光環境への配慮			4.0
2 昼光の調整による夜間照明(ゲリラ)への対策			3.0

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社上組 飛鳥複合倉庫新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境に溶け込む建物形状 ・良好な室内環境(光、空気質)の確保 ・省エネルギー、環境配慮、設備の高効率化
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な昼光利用(南、東面に窓開口設置) ・化学汚染物質抑制材料の全面的な採用 ・十分な換気量(30m³/h)の確保 ・新鮮外気の導入(排気とは方位を別)
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室天井高(2.7m)確保 ・十分なリフレッシュスペースの確保 ・維持管理、設備更新に配慮した計画
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・空間形状、自由さに配慮した計画
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・建物外皮の熱負荷抑制 ・自然エネルギーの利用(採光) ・設備システムの高効率化
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水に配慮した衛生器具の選定 ・リサイクル資材の採用 ・汚染物質含有材料の使用回避
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルCO₂排出量の抑制(排出率70%) ・地域インフラへの負荷(汚水処理負荷、交通負荷、光害)抑制
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>